

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	宇部フロンティア大学
設置者名	学校法人 香川学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
心理	心理	夜・通信		6	9	15	13	
人間健康	看護	夜・通信			68	68	13	
人間社会	福祉心理	夜・通信			45	45	13	
(備考) 心理学部心理学科は、令和2年4月開設。人間社会学部福祉心理学科は、令和2年4月学生募集停止。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.frontier-u.jp/student/g-syllabus-student/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宇部フロンティア大学
設置者名	学校法人 香川学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

香川学園ホームページの情報公開ページ（ http://www.kagawa.ac/k_jyoho.html ）に掲載。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	公益財団法人理事	R2.7.7～ R6.7.6	外部理事には、社会における専門的実務経験から学園全体の運営に対して多様な視点からの意見を求めることが期待できる。これらを積極的に取り入れ、融合することにより、多様な教育研究環境の実現に資することを期待する。
非常勤	会社役員	R2.7.7～ R6.7.6	
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宇部フロンティア大学
設置者名	学校法人 香川学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>11月下旬までに次年度開講科目、科目担当者を確定し12月からシラバスの作成を開始する。2月に最終確認作業を行って3月下旬にホームページに掲載して公開している。</p> <p>シラバスには、授業形態・履修形態・単位数・開講期、授業概要、到達目標、成績評価方法及び評価基準、授業計画と概要、予習・復習内容等が記載されており、学生にはシラバスを確認して履修登録をするように指導している。</p>	
授業計画書の公表方法	http://www.frontier-u.jp/student/g-syllabus-student/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスに授業科目の評価項目ごとの評価基準と評価割合が明示されており、単位授与・履修認定はあらかじめ設定した成績評価の方法・基準により厳格かつ適正に実施している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPAについては、認定科目・未履修科目・履修中の科目を除外して、次の計算式で算出し、学部学年ごとのGPA分布図を作成している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> $\text{GPA} = \frac{4 \times \text{秀の単位数合計} + 3 \times \text{優の単位数合計} + 2 \times \text{良の単位数合計} + 1 \times \text{可の単位数合計}}{\text{成績が秀・優・良・可・不可科目の単位数合計}}$ </div> <p>また、各オリエンテーション時のチューター面談等において、学生個別のGPAを利用して学修指導を実施している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>http://www.frontier-u.jp/student/g-result/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定方針</p> <p>ディプロマ・ポリシーは各学部で定めており、心理学部は卒業に必要な単位数124単位を修得し、(1) カウンセリングマインドと実践的理解の深化、(2) 豊かな教養を抛り所としてアサーティブな自己表現、(3) 変化を受け入れ主体的に取り組む態度、(4) 心理学的知見に基づいた多面的な問題解決力、(5) 心理学を活用した地域社会における多様な協働力を身に付けた学生に学位を授与するとしている。人間健康学部は卒業に必要な単位数124単位を修得し、(1) 人に寄り添う高い倫理観、(2) 幅広い教養に基づく柔軟な思考力、(3) 看護学を生涯学び続ける姿勢、(4) 看護専門職としての高度な実践力、(5) 看護の視点から広く社会貢献する態度を身に付けた学生に学位を授与するとしている。人間社会学部は卒業に必要な単位数126単位を修得し、(1) 人への関心と学問の理解、(2) 柔軟な思考と表現力、(3) 未知の領域に挑む意欲、(4) 知識の応用力と判断力及び(5) 地域に貢献する積極的な態度を身に付けた学生に学位を授与するとしている。</p> <p>カリキュラムマップ</p> <p>入学時に配布するキャンパスガイドに、ディプロマ・ポリシーと各科目の関係を示したカリキュラムマップを掲載し、学生に周知している。また、カリキュラムマップを教員にも周知しており、自身の授業について学生に身に付けさせる能力を意識できるようにしている。</p> <p>卒業判定</p> <p>卒業の判定は、4年生後期の定期試験終了後、科目の成績が出た後に、卒業判定教授会で行っている。留年生の場合、前期の定期試験終了後に行う場合がある。卒業判定教授会において、4年生一人ひとりの科目群ごとの修得単位数及び修得単位数の合計が記載された資料を基に、卒業要件を満たしているかどうか判定するとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力が身につけているかどうか確認する。卒業判定教授会の議を経て、学長が卒業を認定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/ 入学時に配布するキャンパスガイド</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	宇部フロンティア大学
設置者名	学校法人 香川学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kagawa.ac/k_jyoho.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.kagawa.ac/k_jyoho.html
財産目録	http://www.kagawa.ac/k_jyoho.html
事業報告書	http://www.kagawa.ac/k_jyoho.html
監事による監査報告(書)	http://www.kagawa.ac/k_jyoho.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-public-info/a-info-education

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.frontier-u.jp/jihee/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 心理学部心理学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.frontier-u.jp/wp-content/uploads/2020/05/mokuteki_frontier.pdf ）
（概要） （心理学部） 現在社会における複雑化した諸問題を、心理学の視点から総合的・横断的に、地域に密着した形で教育研究し、自らの力で課題を見出し、最適の解決方法を考え、実行する能力を涵養することを目的とする。 （心理学科） 人々のニーズに応じた心理的実践を医療、福祉、教育、司法、産業などの現場で展開できる幅広い教養及び高度な専門的知識・技術、判断力をもつ人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/ ）
（概要） 心理学部心理学科では、建学の精神である「人間性の涵養と実学の重視」を教育の基本理念とし、卒業に必要な単位数 124 単位を修得し、以下に掲げる能力を身に付けた学生に、学位を授与します。 （1）カウンセリングマインドと実践的理解の深化 様々な生活課題を抱えている人々および世界の人々に肯定的な関心を持ち、社会活動等を通じ、学問を深めることができる。 （2）豊かな教養を拠り所としたアサーティブな自己表現 幅広い教養力で柔軟にものごとを考え、自分の考えも主張できる。 （3）変化を受け入れ主体的に取り組む態度 地域社会や心理の現場において、新たな変化に怯まず、意欲的に対応することができる。 （4）心理学的知見に基づいた多面的な問題解決力 心理学やその他の幅広い分野で得た知識を基にコミュニケーション能力やスキルを発揮して地域社会や心理の現場で問題解決に努める。 （5）心理学を活用した地域社会における多様な協働力 心理学を活用して人々の笑顔につながるサービスを提供する心理の専門家やビジネスマンとして地域社会で活躍する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/ ）
（概要） 心理学部心理学科のカリキュラムは、心理学とその他の幅広い分野について学ぶことにより、複雑化した社会で課題解決ができる能力を身に付けることができるよう編成しています。同時に、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるため、教育課程において以下のことを実施します。 （1）教育課程の編成 ・教育課程は「基礎・教養科目」および「専門科目」からカリキュラムを構築する。「基礎・教養科目」は入門、情報処理および語学からなる「基礎科目」、社会の理解、自然の理解、人間の理解からなる「教養科目」及び「コミュニケーション科目」と「キャリア科目」からなっており、それぞれから卒業に必要な単位を修得する。ここでは高校から大学への接続を円滑にしながら諸科学への興味関心と理解を深めると同時に、心理学の基礎的思考方法を習得してコミュニケーション能力を育成することで、柔軟な思考と表現力を高めていけるよう支援する。また、地域に貢献する積極的態度を育成するため、キャリア形成に関する科目や地域における実習を含む科目を 1 年次から 4 年次までの継続性のある教

科目として配置する。

・初年次教育を重視し、1年生の必修科目に心理学基礎ゼミナールを開講し、年間を通じて学習方法や、グループワークで自分の考えを主張する能力の修得を目指す。

・心理学の専門科目を「学部共通」、「心理学基礎科目」及び「心理学展開科目」に分け、学修する内容の順序性、関係性を踏まえて教科目を配置する。

・主体的に学び、考え、様々な状況に対応できる力を身につけられるよう各科目では主体的な学びを推進する。

・「公認心理師コース」では、心理カウンセラーとなって臨床心理学の知見を地域の人々の健康の増進や安心のために活かすことができるスペシャリストを養成する。このために、「研究法」と「基礎心理学」を基盤として、公認心理師に求められる「公認心理師関係」の関連科目をコースの必修科目とする。また、「ゼミナール（卒業研究を含む）」を通して未知の領域に挑む意欲と探求心を育成する。

・「ビジネス心理コース」では、一般業務の中で心理学やコミュニケーション力を活かしていくことができるゼネラリストを養成する。このために、「研究法」と「基礎心理学」を基盤として、ビジネス場面に求められる「ビジネス心理関係」の関連科目の履修をコースにおいて推奨する。また、「ゼミナール（卒業研究を含む）」を通して未知の領域に挑む意欲と探求心を育成する。

(2) 学修方法・学修過程

・学習時間を確保するため、年間の履修登録単位数の上限を48単位と定める。また成績が優秀な学生には、追加での履修登録を認める。

・全学的に、アクティブラーニングによる授業に取り組む。これにより、学生に能動的な学習の仕方を身に付けさせる。

(3) 成績・学修成果の評価

・各科目の評価は、「定期試験（中間・期末）」「小テスト、授業内レポート」「宿題、授業外レポート」「授業態度」「プレゼンテーション」「グループワーク」「演習」「実習」の8つの評価項目のうち複数組み合わせ、100点満点で総合評価する。

・GPA (Grade Point Average) に基づいてゼミナール担当教員が学生に対して学修に関する相談を実施する。特に2年次の「ビジネス心理」「公認心理師」コース選択時にはGPAを学生がコース選択をするための参考資料として重視する。

・4年生の「ゼミナール（卒業研究を含む）」科目の中で、心理学についての総合的な知識・技術の確認・評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/>）

(概要)

心理学部心理学科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す内容を達成するために、以下に示す学生像を求め、入試選抜・入学前教育を実施する。

(1) 求める学生像

・心理学を通して人間に対する強い関心を持ち、実践活動を通じて学術を極めることができる人

・コミュニケーション能力、スキルを使い自分の考えを持つと同時に他者の意見も柔軟に取り入れることができる人

・常に新しいことに挑戦するフロンティア精神をもって社会で活躍しようとしている人

・グローバルな思考で地域に主体的に参加するために必要な素養を心理学を通して身につけたい人

・心理学を通して人々に笑顔を届けたいと考えている人

(2) 入試選抜について

心理学部心理学科では、求める学生像受け入れのため、教科の試験や高等学校からの推薦、総合型選抜および大学入学共通テストを利用した試験等、多様な入試選抜を実施する。

(3) 入学前教育について

大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、心理学部心理学科は入学予定者に課題を与え、その提出を求める。もしくは、入学までに学習しておくべき項目を提示する。

学部等名 人間健康学部看護学科
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.frontier-u.jp/wp-content/uploads/2020/05/mokuteki_frontier.pdf）</p> <p>（概要） （人間健康学部） 現在社会における複雑化した諸問題を、「人間と健康のあり方」の視点から総合的・横断的に、地域に密着した形で教育研究し、自らの力で課題を見出し、最適の解決方法を考え、実行する能力を涵養することを目的とする。 （看護学科） 生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観、幅広い教養、豊かな人間性並びに看護の現象・事象に的確に対応できる高度な専門的知識・技術、判断力を備えた看護職者の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/）</p> <p>（概要） 人間健康学部看護学科では、建学の精神である「人間性の涵養と実学の重視」を教育の基本理念とし、卒業に必要な単位数 124 単位を修得し、以下に掲げる能力を身に付けた学生に、学位を授与します。 (1) 人に寄り添う高い倫理観 生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観を持つことができる。 (2) 幅広い教養に基づく柔軟な思考力 幅広い教養を育むために、学問を探究し批判的思考力を持つことができる。 (3) 看護学を生涯学び続ける姿勢 看護の現象・事象に対応できる高度な専門的知識・技術を高める姿勢を持つことができる。 (4) 看護専門職としての高度な実践力 専門職としての的確な判断を行い、質の高い看護を提供する能力を持つことができる。 (5) 看護の視点から広く社会貢献する態度 グローバルな社会における看護の役割を広い視野で捉え、社会に貢献する態度を持つことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/）</p> <p>（概要） 人間健康学部看護学科では、教育課程の編成の主要概念として、人間・健康・社会・看護の 4 つを掲げています。そして、【人間と看護】という総合的視点にたって、看護学の専門的知識と技術を深く学んだ人材を育成するための支援をおこないます。同時に、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるため、教育課程において以下のことを実施しています。 (1) 教育課程の編成 ・教育課程を教養教育科目と専門教育科目からカリキュラムを構築しています。教養教育科目では、広い視野を持ち、多角的に物事を考え、新しい状況下でも的確に対応していく力のある学士を育成するために、幅広い知識を身につけていけるよう支援します。 ・専門の現場における応用力や課題解決力を養うため、専門科目を「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基本」「看護実践の展開・応用」「看護学の統合」といった科目群に分け、それぞれから卒業に必要な単位を修得するようにしています。 ・初年次教育を重視し、1年生の必修科目に基礎ゼミナールを開講し、年間を通じて学習方法や、グループワークで自分の考えを主張する能力の修得を目指しています。 ・看護学科の主要な 4 つの概念である人間・健康・社会・看護とそれらの関係性にもとづき、学修する内容の順序性、関係性を踏まえて教科目を配置しています。 ・主体的に学び、考え、様々な状況に対応できる力を身につけられるよう各科目では主体</p>

<p>的な学びを推進しています。</p> <p>(2) 学修方法・学修過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習時間を確保するため、年間の履修登録単位数の上限を 55 単位と定めています。また成績が優秀な学生には、追加での履修登録を認めています。 ・全学的に、アクティブラーニングによる授業に取り組んでいます。これにより、学生が能動的な学習の仕方を身に付けます。 ・保健師受験資格を取得したい学生は、2 年次終了時に GPA や面談による評価により、3 年次以降、保健師関連科目の履修を認められます。 <p>(3) 成績・学修成果の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の評価は、「定期試験（中間・期末）」「小テスト、授業内レポート」「宿題、授業外レポート」「授業態度・授業参加度」「プレゼンテーション」「グループワーク」「演習」「実習」の 8 つの評価項目のうち複数組み合わせ、100 点満点で総合評価します。 ・4 年生の必修科目の中で、看護の総合的な知識・技術の確認・評価を行います。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/）</p> <p>(概要)</p> <p>人間健康学部看護学科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す内容を達成するために、以下に示す学生像を求め、入試選抜・入学前教育を実施します。</p> <p>(1) 求める学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々とのかかわりに関心を持ち、その人らしさを感じることができる人 ・自分の考えを持つと同時に他者の意見も柔軟に取り入れる人 ・新しいことにチャレンジし、自らの課題を見つけることができる人 ・地域と世界の重要性を、ローカルな視点とグローバルな思考で地域に主体的に参加していくことで認識することができる人 ・人々の健康に関心がある人 <p>(2) 入試選抜について</p> <p>人間健康学部看護学科では、求める学生像受け入れのため、教科の試験や高等学校からの推薦、センター試験を利用した試験等、多様な入試選抜を実施します。</p> <p>(3) 入学前教育について</p> <p>大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、人間健康学部看護学科は入学予定者に課題を与え、その提出を求めます。もしくは、入学までに学習しておくべき項目を提示します。</p>

<p>学部等名 人間社会学部福祉心理学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.frontier-u.jp/wp-content/uploads/2020/05/mokuteki_frontier.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>(人間社会学部)</p> <p>現在社会における複雑化した諸問題を、「人間と社会のあり方」の視点から総合的・横断的に、地域に密着した形で教育研究し、自らの力で課題を見出し、最適の解決方法を考え、実行する能力を涵養することを目的とする。</p> <p>(福祉心理学科)</p> <p>人々のニーズに応じた援助を医療、福祉、心理などの現場で展開できる幅広い教養及び高度な専門的知識・技術、判断力をもつ人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/）</p>

(概要)

人間社会学部福祉心理学科では、建学の精神である「人間性の涵養と実学の重視」を教育の基本理念とし、卒業に必要な単位数 126 単位を修得し、以下に掲げる能力を身に付けた学生に、学位を授与します。

(1) 人への関心と学問の理解

様々な生活課題を抱えている人々および世界の人々に肯定的な関心を持ち、社会活動等を通じ、学問を深めることができる。

(2) 柔軟な思考と表現力

柔軟にものごとを考え、人の意見をよく聴いたうえで自分の考えを主張できる。

(3) 未知の領域に挑む意欲

地域社会および福祉や心理の現場において、新たな変化に怯まず、意欲的に対応することができる。

(4) 知識の応用力と判断力

地域社会および福祉や心理の現場において、問題点を明らかにし、教養教育・専門教育で培った様々な知見を基に、解決に向けて働きかけることができる。

(5) 地域に貢献する積極的態度

ローカルな視点と同時にグローバルな視野をもち、地域に主体的に参加できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：<http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/>)

(概要)

人間社会学部福祉心理学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるため、教育課程において以下のことを実施しています。

(1) 教育課程の編成

・広い視野や実践活動に必要なコミュニケーション能力を獲得するため、教養科目を社会教養教育科目とコミュニケーション科目の二つの科目群に分け、それぞれから卒業に必要な単位を修得するようにしています。

・地域社会および福祉や心理の現場における応用力や課題解決力を養うため、専門科目を専門基礎科目と専門展開科目の二つの科目群に分け、それぞれから卒業に必要な単位を修得するようにしています。

・初年次教育を重視し、1年生の必修科目に基礎ゼミナールⅠ・Ⅱを開講し、年間を通じて学習方法や、グループワークで自分の考えを主張する能力の修得を目指しています。

・2年次前期に総合演習Ⅰ、後期に総合演習Ⅱ、3年次前期に総合演習Ⅲ、後期に総合演習Ⅳ、4年次通年で卒業研究といったゼミナール形式の科目を必修としています。1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱと合せて、4年間を通じていずれかのゼミナールに所属することで、課題発見・解決力やディスカッション・プレゼンテーション力の育成を行います。

・社会人基礎力の修得や、キャリア形成を考える科目であるキャリア支援Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを必修科目としています。

(2) 学修方法・学修過程

・学習時間を確保するため、年間の履修登録単位数の上限を60単位と定めています。また成績が優秀な学生には、追加での履修登録を認めています。

・アクティブラーニングによる授業に取り組んでいます。これにより、学生が能動的な学習の仕方を身に付けます。学生のボランティア活動を推奨し、周知・支援しています。また、インターンシップ体験を卒業単位として認めています。

・初年次に心理学専攻と社会福祉学専攻を選択し、各専攻に適した科目の履修をします。広い視野獲得のため、お互いの専攻の科目も選択科目として履修します。

(3) 成績・学修成果の評価

・各科目の評価は、「定期試験(中間・期末)」「小テスト、授業内レポート」「宿題、授業外レポート」「授業態度・授業参加度」「プレゼンテーション」「グループワーク」「演習」「実習」の8つの評価項目のうち複数組み合わせ、100点満点で総合評価します。

・4年生に対して、それぞれの専門に関する、知識・技術の確認・評価を行います。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：入学時に入学生に配布したキャンパスガイ

ド)
<p>(概要)</p> <p>人間社会学部福祉心理学科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す内容を達成するために、以下に示す学生像を求め、入試選抜・入学前教育を実施します。</p> <p>(1) 求める学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な生活課題を抱えている人々および世界の人々に肯定的な関心を、講義や実習および主体的な社会貢献活動を通して身に付けていこうとする意欲のある人 ・他人の意見をよく聴き、受け入れていくことで、自分の考えを述べる、または状況に応じて変えられる柔軟性を持つようとする人 ・新しいことに挑戦し、課題を発見していくことで、フロンティア精神を身に付けていこうとする人 ・ローカルな視点とグローバルな視野をもって地域に主体的に参加していくことで、世界における地域の重要性や課題を認識していこうとする人 ・医療・福祉・心理などの現場で展開する幅広い教養及び専門的知識・技術・判断力を、本学の学士課程を通じて身に付けることができる人 <p>(2) 入試選抜について</p> <p>人間社会学部福祉心理学科では、求める学生像受け入れのため、教科の試験や高等学校からの推薦、センター試験を利用した試験等、多様な入試選抜を実施します。</p> <p>(3) 入学前教育について</p> <p>大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、人間社会学部福祉心理学科は入学予定者に本学が重視するコミュニケーションに関するアクティブラーニングの機会を提供します。もしくは、レポート等の課題を与え、その提出を求めます。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
心理	—	6人	1人	3人	0人	0人	10人
人間健康	—	5人	3人	8人	5人	2人	23人
人間社会	—	1人	1人	0人	0人	0人	2人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				59人			59人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-teacher-all/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
心理	70人	52人	74.3%	140人	105人	75%	—人	—人
人間健康	80人	59人	73.8%	330人	272人	82.4%	5人	0人
人間社会	—人	—人	—%	160人	62人	38.8%	10人	0人
合計	150人	111人	74%	630人	439人	69.7%	15人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
心理	—人 (—%)	—人 (—%)	—人 (—%)	—人 (—%)
人間健康	60人 (100%)	0人 (0%)	54人 (90%)	6人 (10%)
人間社会	35人 (100%)	3人 (8.6%)	24人 (68.6%)	8人 (22.9%)
合計	95人 (100%)	3人 (3.2%)	78人 (82.1%)	14人 (14.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画については、ホームページにシラバスを掲載している。シラバスには、授業科目名、講義・演習等の授業形態及び授業概要・毎回の授業計画を掲載している。また、学年暦をホームページ上に公表している。
 これらの公表は、以下のホームページアドレスで行っている。
<http://www.frontier-u.jp/student/g-syllabus-student/>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
 シラバスに授業科目の評価項目ごとの評価基準と評価割合が明示されており、単位授与・履修認定はあらかじめ設定した成績評価の方法・基準により厳正かつ適正に実施している。
 卒業に必要な単位数を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けた学生に卒業を認定し、学位の授与を行っている。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
心理	心理	124 単位	有・無	単位
人間健康	看護	124 単位	有・無	単位
人間社会	福祉心理	126 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.frontier-u.jp/campuslife/c-map-campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
心理	心理	660,000 円	250,000 円	350,000 円	施設設備費、実験実習費
人間健康	看護	980,000 円	250,000 円	470,000 円	施設設備費、実験実習費
人間社会	福祉心理	660,000 円	250,000 円	350,000 円	施設設備費、実験実習費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ① チューター制度 学生一人一人にチューターを割り当て、履修や生活面の相談・アドバイスをを行っている。 ② オフィスアワー オフィスアワーを設定し、学生が授業時間外に教員に質問ができるようにしている。 ③ 留学 オーストラリアやアメリカ合衆国等海外にある大学と学術協定を締結し、交換留学等の支援をしている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生一人ひとりに対して進路に対する「動機付け」を育成するために、入学時から診断テストや面接を中心とした支援システムを実施している。学年に応じ計画的に推進することにより、真に社会で求められる人材を育成するとともに、就職に対する在学生の満足度を向上させている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ① 学生相談室 学生相談室に相談員として臨床心理士を配置し、主に精神面での相談を行っている。 ② ハラスメント対応窓口 ハラスメントの相談ができるよう、相談窓口の電話番号を公開し、学生に周知している。 ③ 保健室 保健室において、学生の健康相談や定期健康診断の事後指導等を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-public-info/a-info-education/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F135310110130
学校名	宇部フロンティア大学
設置者名	学校法人 香川学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		45人	44人	46人
内 訳	第Ⅰ区分	27人	28人	
	第Ⅱ区分	18人	16人	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				46人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	-		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	-	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	12人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	12人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。